

# 突然の“再起不能宣告”

「まだ走りたい」

状を進行させるリスクを  
伴うといわれる。

「うそでしょ」

大分市出身の女子陸上選手・沢田実希(25)。ジャパンローヤルゼリー、福岡市は福岡大1年だつた2005年11月、福岡大学病院で「腎機能が低下する難病『IgA腎症』の可能性が高い。もう一度とスポーツはできないと思う」と診断され

た。現実とは信じられず、あふれる涙を止めることができなかつた。現実とは信じられず、あふれる涙を止めることができなかつた。

「IgA腎症」は軽度であれば、尿の異常(潜血やタンパクの検出)だけで済む場合が多い。しかし、病状が進行すれば最悪の場合は人工透析が必要な末期腎不全に陥ることもある。完治が難しく、激しいスポーツは病

状は“中等度”  
大分高時代はインター  
ハイ、国体、日本ジュニア選手権の400m障害で3冠を達成。大学では

## 受け止められず号泣

書いたはがきを送り、希望にあふれていた。

実希は病院から和子にた。

和子に「走れないなら死ぬ」と口走ってい

人で待っていた。

(敬称略)

その月に入院し、腎臓

× × ×

来年のロンドン五輪出場

大分高出身の沢田は、

腎臓の難病で競技への復

をを目指している。発症か

ら復帰、夢への挑戦!。沢田の軌跡を追った。

## 腎臓の難病『IgA腎症』

IgA腎症に間違いない。リートとして復活した。症状は“中等度”まで進んでいる。激しい運動は困難。別室では、結

果を聞くために実希が一  
人で待っていた。

ストレッチをする沢田実希(ジャパンローヤルゼリー)=福岡大陸上競技場



▷▷1



んなこと(競技復帰は厳しい)を言つても走りたいし、やりたいことはいっぱいある。北京五輪にも出たい」と、現実を受け止められずにいた。

「疲れやすい」とは思つていたが、自覚症状があまりない病気ということもあり、予期せぬ宣

大分市出身の女子陸上選手・沢田実希(25)。ジャパンローヤルゼリー、福岡市は福岡大1年だつた2005年11月、福岡大学病院で「腎機能が低下する難病『IgA腎症』の可能性が高い。もう一度とスポーツはできできない」と診断され

て、走ればいつも1番だ

に両親へ説明した。「I

不屈の精神でトップアス